

## リニア山梨県駅と山梨県内の状況

当課ではリニア中央新幹線中間駅地域の信用金庫との情報交流を進めておりますが、このほど山梨県へ3回目の訪問を行い、山梨信用金庫（本店：甲府市）、甲府信用金庫（本店：同）と情報交換を行いましたので概略を紹介します。

### 1. 山梨県内の状況

山梨県内で工事中なのは南アルプストネル山梨工区（早川町）のみ、という状況に変わりありません。駅周辺整備は、平成25年7月から28年1月にかけて「山梨県リニア駅周辺整備検討委員会」で策定された「リニア駅周辺整備基本方針」（以下「基本方針」）、平成27年8月から28年7月にかけての「山梨県リニア環境未来都市検討委員会」で検討されてきました。

本年1月から、山梨県は新たに「未来都市創造会議」を設置し、リニア駅が「山梨県全域にリニア開業効果が影響する」（第1回会議県知事挨拶）ための検討を進めています。発表された議事録の中で、①山梨県駅が山梨県内にとどまらず、「長野県まで影響範囲に含む広域のゲートウェイになる」（第1回会議議事録）として「県内外の動きを踏まえながら検討」（同）していく、との意見が出ていることを認識しておく必要があります。また、②観光交流施設として山梨県駅でもコンベンション施設を検討対象としていますが、「リニア長野県駅でも広域連合でコンベンション機能を検討」（同）、「リニア神奈川県駅でもそのような機能を検討」（同）していることから「今後の需要等を含め」（同）検討したい、としていることは注目されます。

同じく山梨県のホームページに掲載された設計チームによる企画提案は下図になります。交流ゾーンにはコンベンション施設が取り入れられています。



リニア山梨県駅予定地  
ほぼ予定線の上に立ち、南アルプス方面を望む

リニア山梨県駅周辺整備イメージ



(株)日建設計シビル・三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)共同企業体による企画提案イメージ

(山梨県HPより)

## 2. リニア山梨県駅予定地の状況

リニア山梨県駅予定地を訪問しました。青々とした圃場が広がるなか、駅周辺整備はまだ検討段階にあるためか、現場には特別の動きはみられませんでした。

予定線上と思われる箇所には鉋が打ち込まれていましたが、リニア新幹線のものかは判断できませんでした。



山梨県駅予定地で

## 3. 南アルプストンネル現場の状況

南アルプストンネル（山梨工区）の早川町の現場を訪ねました。

身延町から県道37号線を辿り、早川町へと向かいます。同町の新倉地区には、県道37号線の旧道沿いに2箇所の非常口が設置されます。そのうち1箇所は本格掘削に入っており、もう1箇所は準備工事中の様子でした。町内には更にもう1箇所の非常口が設置されます。

同じ県道37号線沿いには、南アトンネル山梨工区を担当する大成建設・佐藤工業・銭高組JVの事務所・作業員宿舎が建てられていました。町内にはここだけでなく付近にもう1箇所作業員宿舎と見られる建物群がみられました。

山梨県内でも、発生土については、まず仮置き場で対応しているようで、県道37号線沿いに大規模な仮置き場がみられました。町内ではこれ以外にも発生土と見られる置き場があり、最終的にはどのような処理になるのか注目していきます。



県道37号沿いの非常口

一箇所は矢印方向に掘削。もう一箇所は旧道の手前部分で掘削が行われる。



施工担当JVの事務所・作業員宿舎

## 4. 訪問を終えて

工事面では、環境面をはじめ長野県・山梨県共通の課題があるように思われました。

また、リニア開通に向けた地域の課題を共有していくことが必要として、今後とも沿線連携を進めていくことを両信金と確認しました。



トンネル工事発生土置き場

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)